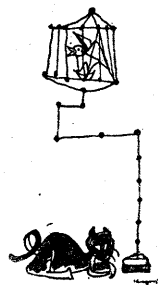


## 園児の夢を追って



高 間 富 子

久松幼稚園は戦前久松小学校の三階屋上のサンルームと、階下現在の図書室を仮りの保育室として三組の園児を收容して狭い制約はありましたが幼稚園ならではの楽しい雰囲気ひたることができました。

それが久松小学校創立記念日の三月九日の戦災のため全校舎羽目板一枚残さず焼失してしまいました。

子を思う親心と学区各町の非常なお骨折りが槌の音高い復興をよんで床を張り壁を直し、一教室、一教室とだん／＼修理されていきました。そのとき横山町、馬喰町の方々が主唱され、そのお力で戦前工作室でありました割合広い一室と廊下をへだてた前の普通教室を修理されました幼稚園が再開されたのが昭和二十四年四月でありました。

当時義務教育優先と六三制整備に大童でありました区経済と窮乏の中に生れた幼稚園だけに施設としては何一つないガラんとした空漠そのもの、部屋だけでありました。

社会の立直りは未だ日が浅く、敗戦の憂き目を語る混沌無秩序が反映しまして親を

放れて、安心して幼児を護る天地はたしかに幼稚園のみであったかも知れません。

この環境情勢から切実な親の願いが叶って再開されたものですから父兄は私達の手で、できるものは何でも致しましょうという一致した強い結束でありました。

幼児教育に対する世の関心と、親のこうした打てば響かぬ心構えがありましたので私達の要望は痒い所に手が届くほど次々に施設万端が進められましたことは有難いこととあります。再開後四年の間にピアノ一台、オルガン四台、十六ミリトリーキー映写機、暗幕一式、オートスライドテレプレコダー、人形芝居セット、電蓄楽器類の視聴覚器材各、部屋へはま／＼と遊びセット一揃つ、弁当保温器、整理戸柵、傘立、下駄箱、画架などが次々に保護者の手で作られました。園児の情操を豊かにするためには動植物の飼育栽培にも力をそそぎ、植木鉢、金魚鉢、小鳥籠の他に長さ二間、巾一間、高さ一間半の鉄骨金綱には数つがいの小鳥、上野動物園長から寄贈された小鴨が泳ぎ小石の上には小亀十数匹が這っています。その頃四国から三匹の山羊をつれて

東京まで歩いて来たという小島風平氏が小  
学校の警備員になりましたので、その三四  
の山羊を貰うけ公園課の許可を得て公園  
の一隅に山羊小屋をつくり笠原用務員が飼  
育係りで園児達に喜ばれました。

園内の施設がこうしてだん／＼整い内容  
が充実するにつれて入園希望者が年々倍加  
し、之が受入れには区の当局と一しょに頭  
を悩ます問題でありました。

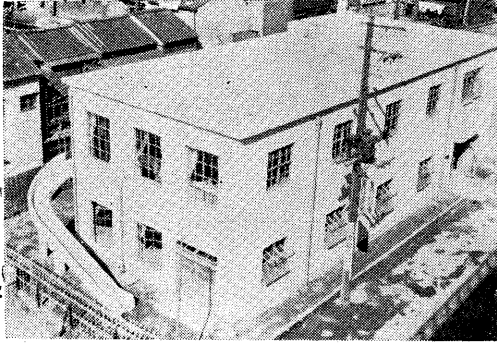
久松小学校は震災のため全焼し隣校にな  
つた千代田、浜町、宮崎小学校の中唯一つ  
残されました関係から学区が戦前にくら  
べて非常に広くなりましたこと、住宅街  
の復興と共に就学児童は激増するばかりで  
いきおい小学校の校舎の一部を借りている  
幼稚園としては義務教育優先の立場からど  
うしても教室を明けねばならない運命に立  
ちいたりしました。

一方には入園希望者が殺倒します幼稚園  
では公立の立場から一人でも多く收容せね  
ばならないという事情から、父兄が鳩首協  
議しました。それは独立園舎を建設してこ  
の隘路を打開していただくより他に、途が  
ないのでそれを区に請願することになりま

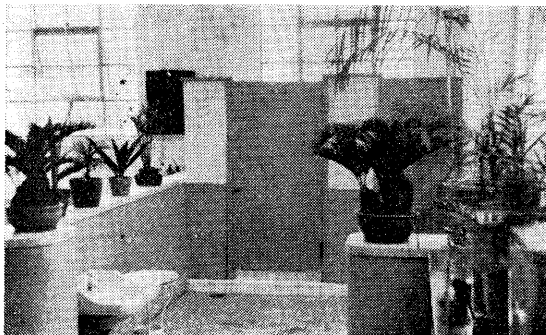
した。

このため次年度入園希望の父兄を含めて  
父兄大会を開き熱烈火を吐く輿論を喚起し  
久松幼稚園後援会を組織しました。会則を  
定め会員の募集をして具体的に運動にとり  
かゝりましたのは昭和二十八年二月であり  
ました。

幸い後援会の団結と熱意が実を結んで会  
員の負担する会費三百六十万円を幼稚園建



72坪の敷地に6教室を容れる園舎全景



開放式便所の一部

設資金の一部として区に献納し、学区関係  
の都区会議員の非常なお骨折りで久松小学  
校児童收容の対策として園舎建築予算七百  
二十万円計上が区議会を通過することがで  
きました。

二十九年度は園舎の建築が実現されると  
いう明るい希望もあつて二百六十名の園児  
を六組に分けて保育することになりました

が、小学校は二十四学級の校舍機構が児童の増加のため二十七学級にしなければならぬ事情から今まで園舎として借りていました三教室を学校へ返さねばならなくなり、またので小学校の職員室を明けていたゞきそれを衝立て二つの部屋に仕切り講堂も園舎のできるまでを条件として四部屋をつくって、災害、引揚者を收容するような急場凌ぎの保育状況でありました。

園舎は、はじめ講堂地つゞきの小公園につくるか、久松警察の裏側にそつた廃道の上に予定されていましたが、公園を使用する先例になるといふことから暗礁に乗り上げましたが、都会、区会議員の方々の非常なお骨折りで昭和七年公園課から小公園七十二坪の土地を小学校の運動場に使用することを許可されていきましたので、その敷地を公園にお返しする代りに小学校南側、路一重の浜町川の埋立地の同面積を園舎建築地に決定されました。

そこで中央区の宮澤課が主となり設計がはじめられましたのが昭和二十八年十二月でありました。設計に当りましては幼稚園舎は平屋建を原則とするといふことゝ、七

十二坪と限定された狭い土地に二百六十名の園児を收容するという難問題がありました。

幸い文部省の有難いお計らいと、御指導で階段をスロープにすること、非常の場合を考慮して避難のときの迂り台を訪けることとして東京の公立幼稚園としてはじめてのケース二階建が許可されました。

いよいよ地固めになりますと浜町川の埋立でありますのではじめ三間の杭が地底に届かず四間の杭を三百本余りも打ち込まねばならなかつたり、それに伴う鉄骨ブロックだけに重量耐震の関係からいろいろ模様替などがありました。保育室は、はじめ階上階下ともに四十九坪各二教室計四室でありましたが、六組、收容の必要から中の壁を抜いて夫々ホール式にしそれを間仕切りすることにしました。

当園の建築について、基本的な課題は限定された七十二坪の敷地に園児二百六十名を如何にして收容するかという点であります。

然もその敷地は公立の立場から通学区域の小学校に接近していなければならぬ条

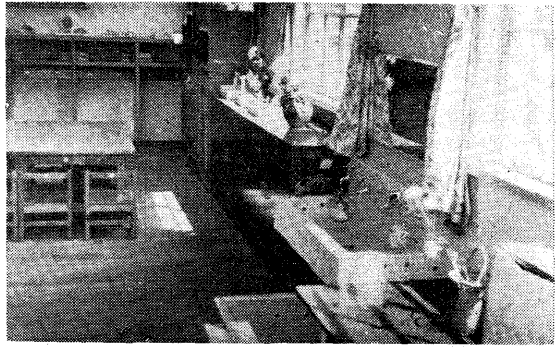
件がありまして隣接した川巾九間の埋立地に建てる他、途がありませんでした。

幼稚園の生命は環境であることを信念とする私どもはこの悪条件を克復して与えられた場所を如何に工夫して最良の環境設定に近づけしむるかに努力を続けねばならぬ覚悟であります。

単的に云うならば当園の設計は潜水艦内の機構そのものであります。

この必然性から限られた空間を最大に活用する考慮が払われねばなりませんでした。

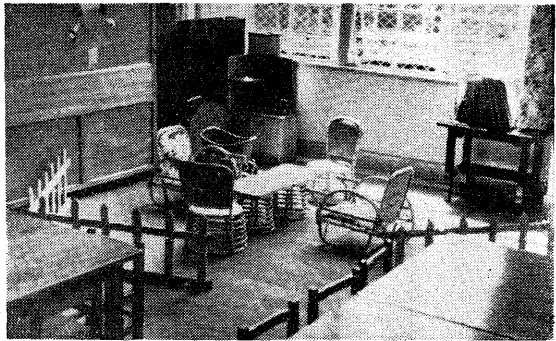
乃ちホール式間仕切りについては、防音と壁面の展示、観察台を具備し、しかも床面積を塞がぬ最小限度の教具、教材の整理戸柵をかね、簡単に動かせるように回転式ゴム車をつけた衝立を考案しました。この衝立は巾一間高さ五尺六寸で脚部は巾一・八尺、高さ一・八尺の両面使用の教材整理戸柵の中央に嵌込になつて取外しができるようにしました。各保育室はこの衝立二つで仕切れ外壁窓の腰板に四人共用のロッカーが取付けられ、上部は園児の整理戸柵にしてあります。



床面積をふさがぬよう腰板を利用した（ロッカー  
飾戸棚・弁当保温器・手洗）

このロッカーと衝立の間は廊下になるわけ、廊下のないのも当園舎の特異であります。

黒板にも新しい工夫をしました。室内の調和を壊さぬ色あいとして地に濃い緑の羅紗を張り、その上に磨り硝子を張りますと字のうつりもよく、粉がとばず、光線の反射もさげられます。園児に使わせるための



まゝごとセットのある保育室

高さと巾をもたせ、両方から使用できるような斜面にし、脚にゴム車をつけ自由に移動ができます。

その黒板の上では紙芝居や人形劇がやれるようにしてあります。

水飲と手洗いとを兼ねたところには冬季自動湯沸をつけ、弁当保温器は壁の腰をつかいました。瓦斯は各部屋に配管し暖房は

瓦斯ストープとしました。

便所は階下と階上に設けましたが日本では未だ余り類例を見ない開放した水洗式とし熱帯植物や常緑の鉢を以て囲み小鳥や、熱帯魚を配し、庭園の感じを出し明るく清楚な気分がたぎよっています。

額には童心をとらえた絵と園児の絵を配して多くとり入れました。

× × ×

幼稚園に一步足を入れるとそこから受ける気分零囲気が幼稚園としての生命であると思います。花屋の店に入った時と、干物屋の店に入った時に受ける感じがどんなであるかは、園児の環境をつくる上に大きな示唆があります。幼稚園の教具・遊具・施設として、その配置、装備は園児にとりましては、それがそのまゝ活きた教材であり小学校での教科書となるものだと考えます。そうしたねらいで私どもは小さく狭いながらも童心に近づけるよう苦心しています。

妙なる音楽に耳を傾け、リズムに身を振わせねばいられないような場、花を愛で、小鳥の囀つりに育てられる（18頁に続く）

軍に、昼寝のひと時を急襲された虫共、びっくり仰天！ピョン／＼／＼、草の間から、飛び出して来ました。つかまえたよ！

先生、袋開けて！子供が叫ぶ、先生、先生、袋！袋！バツタだよ！子供達は虫の大軍に逆襲されて大騒ぎ。洋服にとまる髪の毛にとまる。いた／＼／＼かまきりに咬まれた先生も、思わず大声をあげる。

本当に、楽しかった。生まれて二十年、その間ずっと、東京の町の真中で育った私は、虫取りの楽しさなど、全く知りませんでした。時間さえあれば、もっと／＼、していい位でした。

例のM子ちゃん、近頃では、私にお話するようになり、又、おすべり台に乗って、遊ぶようにもなって、幾分、顔が生々として来たようです。『帰る／＼』と泣いて、慣れない私を困らせたTちゃん、最近では、『大地饅頭』

——土のお団子の事——作りに予念がありません。

こうして、私も、最近、少しずつ、保育の

楽しさが、分るようになって来ました。

けれど、道は遠く、私の実際の保育は、まだく、貧弱で、子供達の生活を、生々とした。豊かなものにしてはけません。でも、私は、今日よりは、明日を、今年よりは来年を……。

と、自身自分に期待しているのです。

先日、入園したばかり、と思つた子供達も程無く、小学校に行くようになるのだ。

『帰る／＼』と言つて、慣れない私を泣かせたあの子ども、年中フラ／＼部屋を歩き廻るあの子ども、鼻をならして甘えるあの子ども……みんな、学校へ行くんだわ。学校に入つても時々、思い出して、幼稚園の私の所へ、訪ねてくれるかしら……、その時、『先生、ピアノ、随分、間違えたね』なんて、言われないかしら……。

(市川学園幼稚園)

(11頁より)

豊かな情緒、幻灯や映画、しかも、その一こま／＼に僕達私たちが入っている自作のスライドを取入れて生々しい体験を語り合うために視聴覚設備を思い切つて施しました。手洗所や階段のおどり場に立てば自分の身なりを映して、正しく、美しくするよう、大鏡を配しました。

壁の色、螢光灯のうつり、朱塗りの階段の手摺り柔く温みを感じる絨壇の代りに赤いうより近代建築の象徴に応わしい高級パルコニーの甍いの場所を思わせる、きれいで、明るいところにしたことなど童心の夢を追う試みであります。敷地の制限は庭園遊び場が思うように取れませんが、幸い近々園舎につゞく埋立地が小公園に予定されていますので、生垣、芝生、庭苑、池、小鳥、小屋ジャングルジム、シーソー、太鼓梯子／＼り台等の遊具を備えて、園児の教具教材を豊富に盛り、園児を美しく丈夫に育てるため植物以上尊くも豊穰な島となるよき環境を設定することを楽しみに努力していきたいと思つています。